**北畠 隆 （きたばたけ・たかし）**

**１、プロフィール**

詩人、医学者。昭和23年頃から、詩作を始める。同人誌「蟻部落」を創刊。24年弘前市を離れ、広島市、名古屋市、新潟市に居住。同人誌「ぷれるうど」等で創作活動をした。

＜生没＞

1928（昭和３）年５月６日～1977（昭和52）年６月６日

＜代表作＞

詩集『副交叉路』

＜青森との関わり＞

南津軽郡浪岡町に生まれる。24年４月まで、青森県に在住。詩作活動をし、作品を発表した。

**２、作家解説**

詩人、医学者。本名大森隆。昭和３年、南津軽郡浪岡町に生まれる。23年、弘前医科大学第１回生として入学。この頃から詩作を始める。24年、布施清一・松川規一らと、ガリ版印刷の同人詩誌「アモルフス」を編集・発行する。26年、「火山脈」・「弘前文学」・「呼子」の同人となる。27年、弘前医科大学卒業。松川規一編集の卒業記念誌『塔影』にアフォリズム風の詩「一人の足跡」を発表。同年９月、同人誌「蟻部落」を布施清一・松川規一・小岩尚好らと創刊、編集人となる。11月、弘前大学医学部放射線教室助手になる。地方新聞にも作品を投稿する。29年４月、広島米国原爆障害調査委員会放射線医学研究室勤務のため、広島市に移る。同年、同人誌「リゲル」、30年「デルタ」、31年「ぷれるうど」に参加する。32年、名古屋大学放射線医学教室助手となり、名古屋市に移る。37年、同人誌「中部日本詩人」に参加する。42年、新潟大学医学部放射線科教授となり、新潟市に移る。50年、新潟日報文化賞受賞。52年６月６日、肺癌のため死去。53年６月、遺稿集『海の青・空の蒼』（考古堂）、11月、遺稿集の詩集『副交叉路』（ぷれるうど詩社）が刊行された。

**３、資料紹介**

〇詩集『副交叉路』

図書

1978（昭和53）年11月15日

217mm×152mm

発行所ぷれるうど詩社。昭和28年～37年までの作品を収録。本文の内容は、「広島の旅人」、「副交叉路」、「昨日について（散文）」からなる。序、高橋信次、跋、高木恭造・藤沢弘芳・佐藤忠善・大原三八雄・北畠桂子。